

## 霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

本日（13日）午前、九州地方整備局の協力を得て行った上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩は直径 600m 程度で前回（9日）と大きな変化はありませんでした。

新燃岳火口から概ね 4 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

新燃岳火口から概ね 3 km の範囲では、噴火に伴う火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、直径 4 cm から 6 cm の小さな噴石は新燃岳火口から 7 km 付近にまで達しています。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。

降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

### ○活動概況

#### ・上空からの調査（図 1）

本日（13日）午前、九州地方整備局の協力を得て行った上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩は全体に褐色で、直径 600m 程度で前回（9日）と比較して大きな変化はありませんでした。また、溶岩周辺から白色の噴煙を火口縁上 200m の高さに上げているのを確認しました。

#### ・噴煙など表面現象の状況

新燃岳では、2月11日11時36分の爆発的噴火以降、噴火は観測されていません。

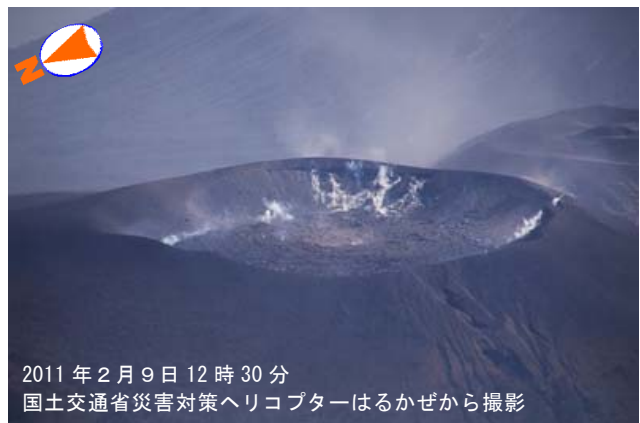


図 1 霧島山（新燃岳） 火口内の状況

- ・火口内に蓄積された溶岩は全体に褐色で、直径 600m 程度で前回（9日）と比較して大きな変化はありませんでした。
- ・溶岩周辺から白色の噴煙を火口縁上 200m の高さに上げているのを確認しました。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。